

# MASUKI INFO. DESK FIGHTING REPORT

関西より発信

No. 229  
【発行・編集】  
MASUKI 情報デスク  
増木直美  
大阪府豊中市上新田2-6-25-113  
TEL 090-3710-4815  
FAX 06-6835-0974  
http://mid.parfe.jp/  
mid@jewel.ocn.ne.jp

● 祝祭日には国旗を掲げましょう。卒業式には「仰げば尊し」を!

## 蓮坊公爾「熟読玩味」

### 10/13 【新刊紹介】

『せやろがいーじやあやまんない』

せやろがいおじさん著、ワニブックス・本体1300円。

本名榎森耕助氏は沖縄で活躍する芸人である。社会日常問題を解りやすくYOUTUBEで発信(登録三十四万以上の優れ伝導者)基督・仏陀の再来か否かと云えよう。前回、貴社「書評」を載せたのは、吉本芸人「ほんこん」氏「コロナと国防」であった。「ほんこん」といって「せやろがいおじさん」にしても、社会問題専門家に非ず。然し、其の真摯な姿見が多く。の共感を得るのは、テレビ、ポット出コメントターの日和見平和主義者が、浸り顔で政府批判する現象。こつした紙切り型(綺麗事)の嫌味に、良識ある健全な日本国民が呆れた証拠でもある。もはや、既存キー局の垂れ流し電波一此れは過去形に為りつつある。

良き時代の到来であるが、言葉の責務も重要だ。政治家の言葉は、国民に媚び建前をそよ風になびかせ話す。故に、(心の機微)に触れず「遺憾に思う」で片付ける。最近は何(OTOKO)何(バカ)な言語の氾濫だ。

「くを覗けば(イクメン)」探しの女性で賑わう。せやろがい氏曰く「見た目重視する日本社会から「ルックスイズム」を排除すべ

し。外見と拜金で選ぶ世相も問題だ。グサツ、刺さる言葉(良い意味)がある。一人間なる生き物は、百個のお褒め言葉が有っても一個の批判言葉が、刺さる。然し、(批判的)こそが強い自分を作る一筆者曰くた。「もつとも」。

### 9/18 【11月号】

世の中狂い咲きだね一七十年代、左翼全盛。史的唯物論が当たり前の世。家永三郎の亡國歴史教科書が検定不合格に成った。当時の教科書調査官には、村尾次郎氏の如く歪曲した歴史を正常化させる熱血漢もいたね。

今日、日本人の為の教科書「新しい歴史教科書」刊が左傾した四人の文部省役人に依り(不合格)されたから驚き。菅総理誕生でも、萩生田光一大臣が留任なのだ。此れでは、検定方針が持続される。影に超親支那派・二階幹事長(越後屋)が睨みを効かす。もはや死に体「検定制度」そのものを変革すべきではなからうが。

### 9/13 【新刊紹介】

『革命家・1000の言葉』

山口智司著、彩図社・本体909円。

小學生の頃、父が買ってくれた「世界偉人全集」を読むのが、心持ち楽しみであった。故に中學の時、トルストイ「人生論」武者小路実篤「人生論」ポナール「友情論」(教訓)めいた言葉の響き

がすきであった。荒川の土手に寝転び、草萌える情念を灯し、(自我の目覚め)一恩誓の彼方を想像(正に吉野源三郎

・君達はどうか生きる満足したものだね。

追憶が私の背中を叩いたのは、「革命家1000の言葉」を書店で見かけたからである。表紙は革命家チエゲバラ(キューバ革命指導者)ボリビアで殺害、腰巻き(帯)に(明日の自分を革命せよ)である。自己変革の道標だと云うこと。

「決意に満ちた言葉」「困難に挑む言葉」「人を動かす言葉」「本質を見抜く言葉」「明日を願う言葉」一第五章依り成り立って居る。

ゲバラ・カストロ・トロッスキー等革命家から政治に依る変革ジョン・F・ケネディ・チャーチルや我が国の吉田松陰や坂本龍馬他、古今東西の著名人物の肉声(名言)網羅した切磋琢磨の座右の書。特に(若人の御盾)と為る筈だ。

一例を上げれば「われわれの問題は、人間が生んだものである。それゆえ、人間はそれを解決することができる」・ケネディー。

言葉と同様に、其の人物像を左頁に載せて居るから有り難い。勇氣ある知識の幅が血潮となり体内を駆け巡るのだ。

「M情報」は連合艦隊です。その旗艦が「NPO 法人百人の会(理事長、辻淳子大阪市会議員)」。2番艦「英霊を被告にして委員会」、3番艦「憲法一条の会」。4番艦「救う会大阪」。5番艦「台湾籍日本人支援の会」これらに頂だいたご意見等をM情報の責任で発信。

《M情報活動報告》編集指針：政治や国際問題、市民活動に全く無縁だった一般の人達に、「おばちゃん語」で政治を届ける

# 各位。各団体等からの報告。ご意見

## 「国民の国防義務」を明記せよ

10/1 広島 奥中正之

新しい歴史教科書をつくる会の機関誌「史ふみ」の9月号に、西村真悟先生が「拉致問題は、被害者救出を阻む『日本国憲法』の無効宣言を促している」と題して書かれている。長年にわたる切実な願いであるめぐみさんとの再会を果たせず身罷られた横田滋さんと奥さんの早紀江さんとの身を切る思いの活躍を取り上げられ、政府が国民を守ることも、救うことも出来ないのは占領憲法のせいなので、占領憲法の無効宣言をなして、日本国憲法を制定せよとの論旨である。

先生の論考の中に、政府が国民を守る意思があれば、横田めぐみさんは拉致されなかったと考えられる痛恨の経緯(いきさつ)を紹介して居られる。記憶にない方が多いと思うので、その部分を紹介すると、「1997年9月、ガドマノンの久米裕さんが能登半島の宇出津海岸から北朝鮮に拉致された。石川県警は拉致犯人の北朝鮮工作員を逮捕し、同人の家から暗号を解読する乱数表を押収してその解読に成功した。この時、政府は、北朝鮮が国家として日

本国民を拉致しつつあるという事実を知った。同時に、わが国民を拉致していた北朝鮮は、それを知った日本国が如何なる行動に出るか、緊張し固唾を飲んだはずだ。しかし、我が国の福田赴美(たけお 内閣)は、本来為すべき、警察と自衛隊に対する厳戒指令を出さず、見て見ぬ振りをしたのだ。その結果、45日後の同年11月15日、新潟から13歳の中学一年生横田めぐみさんが拉致されたのだ。この経緯から明らかのように、北朝鮮の国家犯罪から自国民を守る重要政策課題に不作為だった福田内閣のために横田めぐみさんは無慈悲にも拉致され、日本政府は未だに救い出せないままである。

国家と国民の先頭に立つ内閣総理大臣は確固たる国家意識の下、国家の主権と国民の安全を守る政治姿勢を持つ必要がある。そのような政治家を得るためには憲法に「国民の国防義務」(国民には当然政治家も含む)を明記するのが先ず必要であろう。以上

## つげば祖国よ栄あれ(二)

9-26

埼玉 村田春樹

NEWSの朝ドラについて再び。今日(6月25日)はついに「暁に祈る」が登場

した。伊藤久男がシコーディングするシーンでなんと一番一番すべて放映された。NEWSなのに珍しいことだ。私は落涙を禁じえなかった。加齢とともにますます涙もろくなっているのだ。この歌を聴きながらある情景を思いだした。ちょうど10年前、平成22年8月14日靖国会館での

「Chinaの侵略から靖国・沖縄・台湾・日本を護る国民大集会」

のことである。沖縄からの報告ということで当時88歳の那覇市在住仲村俊子(刀自)は高齢女性への敬称(お)のお話20分の最後の部分を思い出したのだけ文字起こししてみた。以下俊子刀自のお話。

「わたしの女学校時代はChina事変でした。出征兵士を見送りに授業を割いて那覇の港に行くことが日課のようでした。その情景が今でも暁に浮かびます。(ここで突然「暁に祈る」野村俊夫作詞古関裕而作曲の一番を歌い出す)

「ああ堂々の輸送船 さつば祖国よ栄あれ 遙かに拝む宮城の 空に誓ったこの決意」(満場の聴衆も唱和し大合唱になった。)

俊子刀自は続ける。

「英霊の方々は(涙)最後まで祖国の繁栄を願って(涙、しばし絶句)国のために殉じてこられたんです、その遺志を今地上に生きている、日本に生かされている私たちが、その遺志を継いで国を守っていかないとけないと思います。それからもう一つ戦後体制から脱却して日

教組教育から脱却して本来の日本を取

り戻す、建国の理念を取り戻して日出ずる国日本、大和の国日本(そうだ!の声あり)その精神を取り戻して日本を再建して英霊の方々のご恩に報いたいと思います。」(以下拍手大喝采で聞き取れず)俊子刀自のお話し文字起こし以上。

可憐な女学生が日の丸の小旗を振って、故郷を後に勇ましく出征する兵隊さんを見送る情景、送るほうも送られるほうも忘れられないだろう。まさに「暁に祈る」の一番「あああの顔である声で 手柄頼むと妻や子がちぎれるほどに振った旗 遠い雲間にまた浮かぶ」という情景だったのだ。

個人的に俊子刀自から後日談を聞いたことがある。概略以下の如し。

『その後小学校の先生になった俊子刀自は、児童を率いて那覇の港に兵隊さんの出迎えに日課のようにつけた。昭和16年1月中旬第6師団第24師団第2師団が逐次那覇港に上陸、それまで孤影蕭然としていた沖縄の諸島は、まさに剣光帽影で埋まったのだ。沖縄防衛のために、続々と輸送船から下船する完全武装の兵士幾万、見たこともない最新の大砲武器の数々。迎える若き教諭も児童も目を瞠り「ああ、沖縄を守りにこんなに来てくださった!」と涙を流して喜んだそうだ。』

県民挙げて大歓迎だったのだ。だからこそ県民挙げて軍に協力したのだ。沖縄県民かく戦えり。余談だが精鋭第10師団は台湾移駐を命ぜられ(痛恨の

極み(10年12月第32軍から抽出され一個聯隊)ことに那覇港から基隆に向かった。見送る小旗を振りながらも言

い知れぬ寂寥感が漲ったそうだ。今沖縄戦は、日本軍がいかに住民を

ひどい目にあわせたか、という文脈でしか語られていない。とんでもない。

全国各地から集められた将兵はまさに沖縄防衛のため死闘を繰り広げ、県民

もまた小旗を振って歓迎した気持ちそのままに協力したのだ。ついでだが昭和48年、那覇港に初上陸した自衛隊

を日の丸振って歓迎したのが、俊子刀自の御夫君(故人)であり、その時付き従ったのがのちに県知事になる、翁長雄志氏(故人)と奥茂治氏(大活躍中)である。俊子刀自は68歳の今も矍鑠として子弟はじめ沖縄の愛国者を叱咤激励しており、私も叱咤されている一人である。

さて話は朝ドラに戻る。ドラマでは野村俊夫の作る詞が陸軍馬政課にも没になり、回目に採用されたことになっている。史実も概ねその通りだが、馬政課の担当官の注文があまりにうるさく、ああでもないこうでもないという文句を付けられ野村はしどろしどろとため息をついた、その時わきにいた古閑裕而が見かねて「そーそれを頭に使いなさいよ」と言った。そのおかげでやっと歌にまとまったのである。と

伝えられている。古閑自身は、「私の数多い作曲の中で最も大衆に愛され自分としても快心の作といえるのが「暁に祈る」である。私はこの詞を見たとき、

中支戦線に従軍した経験がそのまま生きて前線の兵士の心と一体になり、作曲が楽だった。兵隊の汗にまみれ労苦を刻んだ日焼けした黒い顔、異郷にあって故郷を想う心、遠くまで何も知らぬままに運ばれ歩き続ける馬のうるんだ眼すべ

ては私の眼前に髻髷し、一気呵成に書き上げた。」と述べている。(自伝「鐘よ鳴り響け」)

古閑は歌を通じて心から兵隊を慰労慰藉したのだ。戦後「醬油を大量に飲んで徴兵逃れしてきた奴ら」(粕谷一希談)が古閑はじめ信時潔、藤田嗣治等を戦争協力者と批判した。戦争協力だ?それがどうした!その時お前は何をやって

いたのだ! 私は那覇港で小旗を振って兵隊さんを歓迎した若き日の俊子刀自をはじめ、あらゆる戦争協力者に心から感謝する。平成22年8月14日靖国会館での

「Chinaの侵略から靖国・沖縄・台湾・日本を護る国民大集会」の動画を添付するのでぜひご覧いただきたい。2/3の1分30秒ころから「ああ、堂々の輸送船...」が歌われます。(続々)

**身内に甘いマスメディアのご都合主義 @ 詩織さん問題**

9-24 政経調査会 榎 泰智

TBSコンテンツ支局長であった山口

敬之氏に強制的に性交されたと訴え出たジャーナリストの伊藤詩織氏が米誌「NEWS」が選ぶ「世界で最も影響力のある100人」に選ばれた。

泥酔させホテルに連れ込み本人の同意なしに無理やりセックスしたとされる山口氏が安倍首相(当時)に近い存在

であり、安倍首相を賞美する内容の著作があることで、伊藤氏がこの問題を取り上げた当初はマスメディアの森友・加計学園問題と絡めて安倍バッシングの材料として注目したこともあった。しかし、

当事者が同じマスメディア関係者であり容疑を否定していることから、メディアは本件を積極的に報道しなくなつた。同業者には甘いのである。

マスメディアで取り上げてもらいたいと思う人々や団体は多数いる。そういった中でマスメディアは自らが決定権を持つ恣意的なる「報道の価値」行使し得る権力を握っているし、幹部が決定権を有している。如何なるマスメディアも多かれ少なかれ似たような状況を創

出しているものと思われる。当時の状況等を聞く範囲ではマスコミに職を求め

る伊藤氏に対し、立場を利用した山口氏が酒の席を利用して肉体を弄んだとみる。

伊藤氏が当初示唆していた薬物混入による意識喪失疑惑は粗上に上がっていない。確証がない中で訴えて否定されたら全体が水泡に帰すこの作戦かとも思われるが、現場の状況や証言から見て私は意図的な薬物混入があったこの疑惑をいまでも抱いている。山口氏は伊藤氏の同意があった、彼女からセックス

を誘ってきたと主張しているが、仮にそうだったとしても、TBSワシントン支局長という立場を背景にしていれば、絶対に関係を持ってはいけない。就職を斡旋して欲しい伊藤氏と関係を持つことはジャーナリストとして命取りになることは自明の理。

インターネットテレビ等に出演して伊藤氏を攻撃している様子から見ても品性下劣な獣であることがわかる。日本を貶めて憚らないTBSというマスメディアにおいては相応しい人物なのであろう。伊藤氏が所謂左翼陣営によって支援を受けている事実を以って所謂保守や一部右翼陣営からは伊藤氏に対する誹謗中傷が見受けられる。事の本質を見誤ってはならない。山口氏を刑事・民事で訴え性暴力の根絶を唱えることは何ら左翼的・反日思想に立脚したものではない。

成田空港建設により農地を奪われた農民はたまたま支援に来た左翼学生

の力を借りたものであり、農民がマルクス主義者であった訳ではないのと同じことではないか。

意見が合わないとい何でもかんでも左だ! 反日だ! 拳句の果てに「朝鮮だ!」と言う人がいる。保守であろうがなかろうが、反日であろうがなかろうが、是は是、非は非で見えて行かないと。農民がマルクス主義者でなかったのと同様、今の左翼連中にマルクス主義を理解している人がどれだけのやうやら。ヤジウマ左翼がほとんどのよう

な気がする。

マスキ

# 十一年前の同日中戦一4・26長野の夜

## NPO法人日本パラオ協会

黒石 徹

明日は、4・26長野の聖火リレーの日です。私は今から十一年前に、長野まで行きました。その時に私が書いた手記です。 R2-4-25

### 1. 全夜までの動き

長野市は、私の生まれ育った須坂市の、千曲川を挟んで西隣にある。長野電鉄で三十分弱の距離である。「善光寺さん」へは子供の頃より家族や親戚と一緒に何度かお参りに訪れている場所であり、言わば故郷である。

扱って本年二月からの餃子事件でも、つくづく「シナ」という国にはどうしようもない・・・」と感じていた折の三月十日、チベットの反乱とシナ政府による弾圧が起こった。日本でもこれに抗議し、北京オリンピック開催も問題である等の声も大きくなっていった。聞けばその聖火リレーの日本の舞台は長野市であり、出発地は善光寺のことである。これは黙っている訳には行かぬ、自分一人でも行くと早くに決心を固めた。やがて善光寺では「チベットと同じ仏教徒として聖火リレーの出発地を辞退する」との発表があった。世界が注目する大國日本聖火リレーの出発地という俗世界栄誉を敢然と擲った、末代まで語られるであろう「善光寺さんのご決断」を、私は郷土の誇り

と嬉しく思い、益々「何が何でも行かねばならぬ」と意を強くした。

四月二十五日夜十一時五分、補助椅子も加えて五名を乗せたバスは、新宿駅西口を出発した。事務局より次のような話が合った。

「中国からは留学生等に二十人とも言われる動員が掛かっている。それには『ペットボトルとボールペン』を持参せよ、とまで付け加えられている、このことである。こういう相手との間で相当に危険な状態も予想される。皆さんには一応の保険が掛けてあるが、それで十分ではない。一方で、非公式ではあるが創価学会からも（中国側を支援するよう）二十人とも言われる動員令が池田大作氏の弟名で掛かっている、との非公式情報もある。当方ではこれらに対する防衛策も考えているし、動員はあまり進んでいないとも聞いている。然しとにかく現地では何が起るかは全く予想できないので、皆さん十分に注意し、相手の挑発には乗らないように願いたい。」

なお聞けば、ペットボトルとは「唐辛子等を混入させた水」のこと（目晦まし）であり、ボールペンとはそのまま凶器に代わる代物である。同乗者は「無事帰って来れるのだろうか」という一抹の不安と、悲壮な決意と、負けてなるかという闘志をそれぞれに秘めてやがて眠りに落ち、翌朝未明二時三十八分、仮眠予定の宿坊の駐車場に到着した。

此処は善光寺本堂の西側にあり、本堂前まで側道がある。これを抜けるとライトアップされた荘厳な本堂が目の前に現れた。急ぎ携帯電話で初めて見る夜の善光寺さんを撮影し、他の人にも「夜の善光寺さんは中々見れませんよ」と薦めた。

宿坊に着き、事務局からの注意事項と明朝の予定、朝の長野は摂氏六度と聞き、午前三時半頃二つの大部屋に別れて明かりを落とし、事務局を除き全員雑魚寝で仮眠に入った。

### 2. 26日朝

二十六日午前五時、起床の合図があり、再度事務局より、相当人数の中国人の動員がなされているとの報告があり、ついで我々の具体的行動についての話があった。兎も角できるだけ団体行動をし、仲間同士離れないようにとの注意があり、その後我々全員に防護服が支給された。防護服といっても服ではない。

二十五センチ×三十五センチ位だろうか、厚いニールの袋の中に紙等を重ね入れたもの二枚、その四角に穴を空けてビニール紐を通し、この二枚を前（腹部）に抱え後ろ（背中）に背負って紐で絞めて揺るがない様に工夫したものである。へえ、

こんなのが売られているんだ、と珍しかったが（後に事務局の自作と判明）、取り敢えずこれでボールペンは撃退できると一応の安心を得た。殆どの皆さんは、黒の地に白い「草莽崛起」の文字が入り、その下に雪山獅子のチベット国旗をあしらったTシャツを購入し、これを

「防護服」の上に着こんだのである。話を聞きながら、前日のバスの中で配られた赤飯を朝食としていた人もいた。

さて愈々行動に移ることになる。まず良好な場所を確保する必要があり、我々の行動の拠点確保のため約二十名の先発隊を募ることとした。またこれと別途、現地（長野）集合者を迎えるため三名を募り、筆者はこちらを担当した。残りの人たちは、八時半の善光寺参拝及び、八時十五分の「我々の聖火隊」（＝後述）の三門出発時間を確認し、取り敢えず散会。筆者は現地集合者迎えの出発までの時間、善光寺さんへ参拝にでかけた。宿坊を出て三門の方に向かう途中にはチベット国旗を持つ個人やグループなども見かけた。一方で中国旗は殆ど見かけなかった。敵も流石に善光寺境内に入るのは遠慮していたと見える。

### 3. 先遣隊出発

六時十五分、先遣隊——現地拠点確保組と現地集合迎え組を合わせ二十名強が一緒に宿坊を出発する。目指す場所は、前者グループはイトーヨーカドー駐車場、後者三名は長野市役所前。私は平成十六年二月二十八日新宿での台湾支持デモの時に自作した頑丈な木製フラカードを持っており、今回これを長野に持参して来た。既に「中国は チベット弾圧を やめろー!」「中国はやめろ チベット人弾圧を許さないぞー!」等スローガンを書いた模造紙を張り付けてあるが、まずは

挑発を避けるために文字はビニール袋で見えない様に隠してある。他の人達はチベット国旗と日本国旗を掲げ、私は片手で旗を掲げ一方でこのプラカードを下げながら、本殿及び三門を背にして仁王門を出た。暫くは石畳の参道がある。これを下り、参道外(市街)に出ると愈々、赤い旗が目について来た。それでも未だ未だ初めのうちはチベット国旗の他のグループも多く見られ、全体的には半々くらいだったかと思う。

相手は特に殺気立った様子も無く、すれ違う時には、サッカーのサポーター宜しく両頬には五星紅旗と日の丸をペイントしている者もいた。また「日中友好」の垂れ幕や日の丸と五星紅旗を表と裏にした旗もあった。しかもこれらの旗を我々に向かって笑顔で振っているのである。全員が若い学生であり、

我々の様な年配のグループは一人も見かけなかったと言ってよい。思うに、中国政府からの動員命令には、「友好」を目的にせよとも言われ、遠足気分であつた学生も多かったのではないかと

思う。

これに安心したのか、我々のグループでもスローガンを書いた垂れ幕とかプラカード(柄の付いたもので無く単なる板紙状のもの)を掲げ始めた。そこで私も折角長野まで持ってきたの思いもあって、ビニール袋を外し自家製木製プラカードを堂々と掲げ始めた。善光寺を背にし、「フリーチベット」を叫びながら、市街を南に下る道路の

左側歩道を進む。こちら側にはチベット旗グループとも遭遇する一方、赤旗は少なかったように思う。一方道路の反対側はかなりの赤旗がひしめいており(チベット旗は少ない)、道を挟んで対立のような構図であった。更に街路を下るにつれて、反対側の赤旗は数を増して来ており、こちら側にも多くの赤旗が入り始め、二十分ほど歩いた緩やかな坂を下り切った信越放送の交差点辺りに着いた頃は、こちら側も反対側も歩道は全て圧倒的な数の赤旗がひしめいていた。交差点では数でこそ負けるがチベット旗も赤旗の中で健闘していた。「フリーチベット」と敵の「チャイナ・加油(ハガンバシの意)の掛け声が錯綜。時刻は午前6時半過ぎ頃か、此処までは未だ不穏な動きは無かった。

#### 4. 先遺隊の衝突

此処から我々グループ二十数名は目的地に向かうため左折する。昭和通り左側五分強ほどで「市役所前駅」のもう一本東側の交差点を渡った。既に此処には赤旗が一杯であるが、我々は市役所に行くにはここを右折、昭和通りを南に渡らなければならぬ。止む無くその中に割り込むように入って行ったが、

交差点での歩道の狭い場所での遭遇(互いが集団行動の為、当然敵とは身体が触れ、押し合いのようになった。一方で「早く向こう側に渡れ」の声。然し警察官が間に入って来た時には、

運悪く信号が青から赤になり、約半数が信号を渡ったが、(私も含む)半数は取り残されてしまった。こちらサイドの警

官は赤旗連中と我々を分けるようにしていたが、既に交差点を渡った方を見るとこちらほど多くはない赤旗グループとの間に何かトラブルがあった様子で、警官二名の慌てた様子が見える。やがて信号が青になり我々も渡って先に渡ったグループと合流した。

合流した後暫くそこに留まり、「フリーチベット」を叫んでいるうちに、赤旗の数が増えてきた。先遺隊は元々拠点確保が目的のため大きな日本の旗やチベットの旗は持っていない。やがて彼らの赤旗がこちらに覆いかぶさるようになってきた。その時にプラカードが目立っていたのである。背の高い普通の学生よりも老けて見える赤旗男が私に向かって来て「オッサン、何だよ、プラカードなんか持って！」と流暢な日本語で迫ってきた。これは危ないと思った瞬間右横から赤旗数人が押されて割り込んで来て、私もまた一歩引いて事なきを得た。警官が又間に入り、全体もこれ以上揉めることは無かった。しかし中国人学生ではなさそうなあの男は一体何者だろう。

この後拠点確保グループ二十名はイトーヨーカ堂に向かい、私と二名は交差点から二、三百メートルほど南の長野市役所玄関前に向かった。ヨーカ堂グループは、我々少数三名のため遠回りをしてくれたのである。

市役所玄関前で「草莽崛起」のプラカードを掲げると現地集合者数人が寄りてきた。七時十分まで待って十名弱の同志を得て、一緒に一旦宿坊に戻ることにした。中に一人二十歳前後だろうか、誠実そうな好感の持てる若者が混じって

おり、聞けばこの為に一人で福井から来たとのことである。帰りは少数でもあり、刺激を避ける為、私もプラカードに再び覆いを被せ、下げて持つことにした。先ほどの衝突した交差点に差し掛かると、警官の指導と思われ赤旗グループは交差点から二十メートル離れた場所に移動させられていた。宿坊に帰るまでの約四十分、善光寺に向かう上り歩道は両側とも赤旗一色とも言うてよく、別のチベットグループとは行き違いますが、相手の圧倒的数の前に「フリーチベット」の声も出す事は憚られた。一方で彼らは争いはやめるように指示が出ていたと思われ、我々を威嚇や挑発することも無く、あちこちで仲間と談笑をしていた。コンビニの前あたりが特に多かったように思う。彼らにとっては他国での集団ピクニックと言ったところであろう。

善光寺につく前頃(八時前)から雨が降り出した。丁度聖火がスタートする時刻とも重なり、聖火のスタートが終わった頃に降り止んだ。これも何かの啓示であろうか。

#### 5. 本隊の出発

我々グループの本体が先遺隊の拠点(イトーヨーカ堂)に向けて出発する予定時刻は八時過ぎであるが、多くは既に集合場所の三門に集まっているというので、宿坊には戻らず三門に行った。昨夜バスで顔を知った人達多くが集まっている。聞けばフジテレビが八時に撮影に来るとの事である。我々はただ行進するのではなく、火

のつかない張りぼての聖火を作り（遺棄化学兵器のM氏製作）、これを先頭に行進し、アピールする計画であったのでこれの取材らしい。周囲の人達と談笑しながら時間を潰す。先程の福井からの若者には「善光寺への参拝は」と聞くと「（未だ）ない」と言う。そこで「牛に引かれて善光寺参り」の話をして、一生に一度かも知れないから参拝して来る様に薦めると、勇んで本堂に向かっていた。因みにこの話は「昔不信心で強欲の老婆がいて善光寺にお参りしたことがない。ある日牛が洗濯物の大切な布を角に引っ掛けて逃げ出した。それを追い掛けているうちに善光寺についてしまい、そのご威光の有難さに跪き、以後信心を持つようになった。」というものである。周囲の数人も「そついうお話だったのですか」と。

八時十五分、チベット弾圧犠牲者の法要に出る人達を除き、グループは聖火を先頭に三門を出発した。朝先遣隊として通った街路を再び下る。既に聖火はこの道を下ってコースを走っていたが、他の人から聞けば、聖火が通り過ぎたあと、これら動員された圧倒的数の赤旗グループが一斉に波が引く如くいなくなったと証言している。全員別の場所に移動したものと恐れ、明らかに統率者がいて組織的に動いていることを思わせた。

して長野大通り方面に向かつて緩い坂道を下った。こちらには赤旗はいない。我々は肅々と日本チベットの両国の国旗やプラカードを掲げ、「フリーチベット」の掛け声と共に整然と目的地向かっていた。ところが大きな赤旗を持つ一名の日本語を話す中国人（？）が意識的に我々のグループ内部に紛れて、赤旗を振りながら一緒に行進をしているのである。グループからは「あれは何だ、おかしいではないか」との声が上がリ、私も一緒になって「（グループから）出て行け！」と声を上げた。賊は「此処は公道だ、自分は此処を歩く権利がある」などと云っている。「我々と離れて歩け」等言うが依然として離れようとしていない。仕方がないので数人で賊を囲むようにして、行進スピードを落とし本体から離れたところで賊を解放してあげた。時には偶然、相手を強く押し出した様な結果になったことがあったかも知れないが、五分ほどで諦めて離れていった。

しばらくして横断歩道を横切り右折、そこから長野大通り右側を南進し五分ほどでヨーカ堂駐車場傍の一般歩道に到着、先遣隊と合流した。此処は長野の歓楽街「権堂」の入口（出口）にある。此処は昔から善光寺参りに来た人達がお参りを終えて「精進落とし」をした場所であり、人通りも多く拠点としては適所である。到着した初めは比較的開いてお、赤旗も多くはなかったようである。また早くから聖火を見ようと来ていた一般の日本人女子学生などもいて、歩道の一番前車道側に陣取って聖火を待っていた。我々も最初の計画では此処で待機しながらシュプレヒコール等を行うことにしていた。しかし赤旗グループはチベットの旗が多く見られるところへ集まって来るようであり、やがて此処も彼らの旗が多く占拠するようになってきた。警官の数も次第に多くなり、一般歩行者は目立たなくなかった。誰かが「ここで止まっているよりも、行進を続けて移動しながらの方が一般にもアピールできる」と提案し、私もその通りと思ううちにこれが支持され、移動を開始した。この時、後ろの方が此れに気付かず一部が取り残されそうになった。大学で応援部であった私はお役に立つのはこの時とばかり大声で「皆さん移動しますよ」と声を掛けた。我々は再び「フリーチベット」の声を上げながら長野大通りの歩道を南進した。

## 6. 本体と赤旗隊の衝突

行進開始後約五分、鍋屋田小学校当たりの歩道には赤旗がところ狭しと密集していた。ここは聖火の通り道近くである。これは少々バイセクト思い赤旗の間を素早く抜けるようにして進んだ。ところが本隊の真ん中辺りにいた私がすり抜けた後に背後を見ると誰も就いて来ない。それどころか、赤旗集団が歩道を塞いでおり後部部隊が見えないのである。どうしたのかと見ていると何かざわついている。本隊は通り抜けた後直ぐの交差点で止まり後続を待つ。この間約30秒程度だろうか、やがて歩道を塞いでいた赤旗集団の真ん中が割れ、後続部隊が我々に追いついたので安心した。

## 7. 旗の先陣争い

さて後続と合流した本隊が再進行後に立ち止まった長野大通りと昭和通りとの交差点は、間もなく聖火が通ることであったが、今までの他の場所と違い赤旗も居たには居たが、初めは意外に空いていたように思われた。よって我々のチベットの旗も車道からも見える場所に数多く掲げる事が出

この後続部隊は敵にやられたのである。目撃者によれば、揉めていた時に突如シナ人女性が突進してきて、後続部隊に跳び蹴りを食らわせたのである。直ちに後続部隊がこの女性を捕まえ、写真も撮ろうとしたところ、それよりも素早く女性はその場を離れようとし、我々部隊と女性の間にも多数の赤旗部隊が乱入して来たために、ついに逮捕することが出来ず逃げられてしまった。この時に怪我をしたのが産経新聞5月5日の一面トップ記事になったN氏である。氏はその脚ですぐ病院に向かったのである。またもう一人敵に顔を殴打され転倒し、更に足蹴にされた拳句に眼鏡を落としてなくしてしまった仲間がいた（T氏）。医師の診断の結果、第五腰椎骨折（全治六週間）であった。複数の目撃者はこの一部始終に対し、敵は予め訓練されているか或いは明確な行動指示が出ていたとしか考えられないと言っている。なおこの二名と更に一名は後日被害届が受理され、5月17日長野県警に呼ばれ事件の事情聴取と実地検分が行われている。

来た。しかしそれも束の間で、数分後には我々の周囲には、矢鱈にポールが永く高く掲げられる旗、直系三センチもあるようなアルミ製ポールで旗を丸めればそのまま凶器になるもの、チベットの旗を隠す為の畳一畳分ほどの大きな旗、その他大小赤旗が、明らかに我々のチベット旗を彼らの赤旗の中に埋没させる目的で集まってきた。我々も黙っていない。少しでも多くのチベット旗が聖火隊の目に触れるようにと、当初からの車道側の位置を死守しようと懸命であった。そして敵はまたこれを遮ろうと、大きな赤旗を横から或いは上からチベット旗に覆い被せるように突き出してきた。以後旗の先陣争いとも言える戦いで彼らの執拗な妨害行動が続くなか、我々の中でも勇氣ある数名は、覆い被さる赤旗幾つかをポールから抜いてしまったり、運動会棒倒しよろしく敵の旗を引っ張りポールを倒すようにした。先陣で既に場所を確保していた我々を、後から来た輩が大きな武器（旗）でそれを遮ったのであるから正当防衛行動であると断言する。

さて此処では直接の肉弾衝突は起きなかった。彼らの上部からの指示が徹底していたのではないかと思う。私はシナ人と目される濃紺のジャンパー(?)を着込んだ、一般学生よりも老けた(30歳以上と見える)男が、旗の戦いには加わらず、現場を見回りながら衝突をしないように指示を出していたのではないかと推測される。それでも一度だけ交差点車道側から強い集団の力が一斉に加わり、私も含め十名弱が転倒しそうになったことはあった。ところで私は旗を持たず、常に自家製のプラカードを持っていた。初めはこれを出るだけ高く掲げようとしていたのであるが、やがて奇妙なことに気付いた。若いシナの学生たちはプラカードを見るかのように顔を横に背けるのである。考えて見れば「チベット」「こそカタカナであるが、彼らは「中国」「弾圧」「虐殺」「止(めろ)」などの漢字は読めるのである。そこで私は高く掲げることが止め、努めて彼らの目の前に露骨にプラカードの文字を突き付けるようにした。勿論「フリーチベット」を叫びながら。そしてこれは効果靚面(てきめん)であった。みな顔を背け、また意気が萎えるような顔をする。

さて聖火は、この旗の先陣合戦の間に通りを通過した様であるが、私を含め我々の殆どもシナの学生も聖火リレーを見ている余裕などは全くなかった。勿論我々の戦いの中に一般の人は皆無であった。また警官は聖火隊の警備に忙しいのか、我々の旗合戦には介入して来ないようだった。

やがて聖火が通り過ぎ数分後、旗の戦いも穏やかになり、赤旗も心なしか少なくなかった。我々も本隊から「引き上げ」の指示が出て、戦闘は大通りを右折し、昭和通りを西に向かった。このとき又も後続部隊十数名が引き上げに気付かず取り残されそうになったので、再び私の「応援部」を活用した。昭和通りを進み始めて数十メートル、私は後ろから背中を軽く突かれた。何事ならんと振り返ると、若き闘志、日本保守主義研究会一君の人懐こい笑顔である。互いの健闘を讃え合い、数枚の写真を撮った。信越放送の角を右折し善光寺に向かって北上した。途中には未だ多くの赤旗が林立しており、その陰にチベット旗も散見された。11時頃宿坊に凱旋した。

## 8. 宿坊での会話

昨夜は遅く、今朝は早く、更には戦闘と、皆かなり疲れたようであった。エッセイで、聖火リレーのニュースを見た。福原愛の走行中の妨害が何度か映された。我々の感覚ではチベットの旗も部分的には目立っていたのだが、テレビでは赤旗一色であった。そういう場面を選んで放映していたのだろうか。

以下は宿坊での幾つかの会話である。

「敵の旗の大きさと多さには圧倒された、我々は遠慮し過ぎていたかも知れない。旗も大きいを用意すべきだった。」

「彼らは指揮命令系統がはっきりしていて行動が一斉である。これに比べれば我々は全くの素人。」

「やけに日本語が上手いのが混じっていたが。」

「そのその通り、『日本人か』と訊いたら、『韓国人』と答えていた。」何故韓国人が？」

「ところで創価学会二千人は何処へ行ったのだろうか？」

「そつえば分からなかった。中国人の中に紛れ込んでいたのかも知れない。日本語の上手いのがそつかも知れない。」

筆者注：後に発表された中国人の

数は約六千人だったとか。とすると当初動員予定中国人数四千十創価二千人？また、上記「4. 先遣隊の衝突で私のプラカードに迫ってきた背の高い日本語男はひょっとして創価・・・？」

やがて宿坊の「精進料理」で昼食、その間に先の怪我をしたZ氏が戻ってきた。この件の今後の対応については事務局に一任となった。

## 9. 帰りのバス

昼前から降り始めた雨は午後には本降りとなり、午後1時、新幹線で帰る人等を除きバスに乗り込み、雨の中帰路に就いた。最初の休憩所「横川」までは車内多くが爆睡。

横川を出る前、売店等へ行きバスに戻った人が言うには、「動員された中国人学生と思われるが、先程売店では彼らとにらみ合いがあった」とのこと。東京から動員された彼らが丁度休憩所を同じくした訳であるが、誰かが隣のバスもそうではないかと言う。窓越しに左隣のバスを見ると、疲れた顔の若者がうつむき加減に空中の一点を見つめていた。休憩所を出てから、全員にマイクを回し本日の感想等を述べて貰うことになった。中国の横暴、日本政府の体たらく等々意見などが出た中で、次の様な意見があった。

「彼らは必ずしも政治的意図を明確に持って動員されているのではないと思われる。日当も出てバス旅行が出来る、言わばミーハー気分に参加しているのが大半のように見える。ある

意味では可哀想な人達ではないか。」私も前述のとおりその雰囲気を感じていたが、他の人も見るころは同じと思った。そして恐らく彼らは、我々が自由に「フリーチベット」を叫び、公然と反政府行動が出来て官憲もそれを咎めないこの日本という国を羨ましく思ったに違いない。中には動員令が出ても行きたくは無かったが、断ると本国に居る家族の身に如何様な影響が出ないとも限らないと考えたかも知れない。そう考えると、先程のバスの若者の不機嫌そうな表情も頷ける。

前言を受けて「彼らが将来本国へ帰り、自由な国を作ろうと考えることを期待する。」と述べた人も居た。私の番が来て、私は「先程のミーハー気分に参加というのは当たっていると思う。」

として、前述の「プラカードの彼らが読める弾圧、虐殺の文字を面前に突き付けた効果」を説明した。午後五時前、解散場所新宿駅に着く直前に丁度マイクが行きわたり、世話人の挨拶のなか到着、解散となった。その後意気投合した人三人でのを潤し、健闘を讃え合った。この二人とは、5月6日の東京水谷橋公園のデモで再会し、終わっ

たらまた一杯・・・。

扱て既にシナの国を挙げての傍若無人ぶりは広く国民に知られるところとなったが、一般マスコミは産経新聞を除き、これを報じるのに身が引けている。彼らは空気を読み間違えていると思われる。一方で、4月26日夜の日本テレビでは、胡錦濤が中国学生の行動に祝辞を与えたことが報道され、またコ

ーチューブでは福田首相が明確に中国寄りの発言をしていることが明らかになっている。現場の警察官は本心は別として、サリマンとしての職務に忠実にならざるを得なかった筈である。警察権力の背後にいる福田の罪は大きく、将来最低の首相と評されるであろうことは間違いない。

五月十二日四川省の大地震が起こった。被害者は、本当に気の毒であるが、あの国では、災害は時の皇帝の不徳が原因と考えられている。シナ共産党は労働者独裁の名の下に、政治・経済を独占するばかりか、精神の自由をも抑圧している。オリンピックなどを主催している場合ではない。

\*\*\*\*\*

## 草莽全国地方議員の会 会長

## 前杉並区議会議員 松浦 芳子

### 黒岩 徹様へ

「長野の変」拜読致しました。素晴らしい記録です。あれから二年経っているのですね。北京オリンピック聖火リレーの時に、バス一台、補助席も使った満席の50人で善光寺に行ったことは忘れられません。ポールペンで襲われるという情報が入り、ファイルに雑誌や新聞紙を入れて「防ボールペンチョッキ」を作ったのですが、ボールペンで襲われることはありませんでした。(あの時、一生懸命に作って下さったUさんは、あちらの世界に逝かれてしまいました・・・)しかし、結果は、50人中1人が怪我。腰の骨が折れた人や、飛び蹴りされて

打撲の方もおりました(私は、腕にあざが数か所でしたが、女に飛び蹴りされたら恥ずかしくて言えるかと報告を拒んだ猛者もおられました)。後日、長野県警に抗議しましたが、怪我人なしとの事で取り合ってもらえませんでした。

早朝、偵察に行った方々から、車に箱乗りになって大きな赤い旗を振っている車が走っているとの報告を受けましたが、驚きでした。ポールは禁止されていきましたので、持って行ったのは、日の丸の小旗とチベットの国旗でした。沿道を埋め尽くされた真っ赤な中国の旗は、太い旗竿でしたからポールをバスに積み込めば良かったなと思いましたが、そうなるかと乱闘になったかもしれせん。今、思い出してもあの時の悔しい感情が蘇ってきます。

50人中地方議員は8人だったでしょうが、チベットの国旗をプリントしたTシャツを着ていましたから

中国人を挑発してしまっただけかもしれませんが、N列に並んで整然と歩いていました。私の前に数人歩いていましたが、赤い旗を持っていた中国人に日の丸の小旗を取られて小競り合いが始まり、警官も来てとうとう団子のような人間の山になってしまいました。私は、ビデオを持っていましたから証拠撮影をしましたが・・・

「きゃあ・・・だれか・・・」

と、おもわず悲鳴をあげたようでした。後日、「松浦に女を見た」と言われてしまいました。恐怖でした。団子になった人々の中には、下敷きになった警官が2人はいたはず。後ろの方では、

取り囲まれた仲間が、戦っていたようでした。ω量ぐらいもある赤い旗をかぶせられて 太いポールで殴られたとか・・・。

バスに乗れずに新幹線で長野駅で合流下さった女性は、通勤ラッシュのように入んでいたと車内の様子を語って下さいましたが、「持っている荷物もベちゃんこになる状態で、全員が長野で降りた。太いポールを持っていったが、大学生があんなポールや旗を買えるわけがないので強制的に動員されたとした考えられない」と・・・。(新幹線の費用も・・・)

私の目の前を通り過ぎた赤の集団は、40〜50人位ずつ先頭と最後にリーダーが付いていたようですが、大学生のようでした。(先頭のリーダーは、凄みのある怖そうな青年でした)

東京から大学生が動員されたのでしよう。すまなそこにお辞儀をして行く可愛い大学生が印象的でした。沿道を取り巻く、真っ赤な旗。中国の方々は、何かあれば総動員されるのです。話としては聞いていましたが、何とも考えられない異様な光景と異様な騒動に驚きました。列からはぐれてしまった女性数人は少し小高い所に移動しましたので、人ごみの中で走っている聖火ランナーの足は見えましたが、近くの住民は、後ろの方で「聖火も何も見えない」とぼやいていました。

長野から善光寺周辺、聖火ランナーを迎える?異様な赤い旗で埋め尽くされた沿道。平和の祭典にふさわしいとは思われませんが・・・。



# 川内時男校長の教育観

## 元徳島県立中学校校長 川内時男

### 22、欧米教育を真似る危うさ (4/19)

「今の学校の教育はふがいない！」  
 「子供に甘すぎる」と憤っている国民は多いことでしょう。その通りです。甘すぎます。マスコミや三流教育評論家の影響が、まるで「子供に甘じやう」を「子供に理解がある」と勘違いしているようです。ではどうして我が国の教育はこれほど子供に甘くなってしまったのでしょうか。それは現代教育が長く欧米教育を真似てきたからです。

欧米と我が国では教育に対する考えがまるで違います。欧米では「子供は成長しようとする力を体内に秘めているので、恵まれた環境を与えてさえやれば大人が手出しせずとも自ずと成長する」と考えます。確かに柿の種は肥沃な土地においてやりさえすれば自分で芽を出し、自然に成長し、やがて実をならせます。これと同じように考えているのです。このことから欧米の教育は「自然主義教育」と呼ばれます。「大人はよいいな手出しをせずともよい」と考えるのですから、欧米の子供が自由奔放なのも頷けます。

しかし我が国では違います。「奔放に育てていたのでは子供は正しく育たない。教え導き、厳しく鍛え、責任感や公德心を養うべき」と考えま

す。古来から我が国に根ざす「伝統教育」と言えましよう。しかし、そんな教育文化が根付いている我が国に、自由奔放に育てる欧米教育を取り入れたのですから、つまへいはずがありません。子供を甘やかすようになるのは当然です。子供は(少なくとも日本人は)欧米人が考えるような「柿の種」ではないのです。欧米人は概して「個」の意識が強く、「自己主張しない人間は価値なし」と考えます。一方、日本人は「個」よりも、仲間と協調し、周囲と調和し、集団で生きようとしています。事実この国民性によって我が国はここまで発展することができました。精密機械のように運行する交通機関、災害時にも整然と行動できる集団、これらは全てこの国民性の故です。これ考えれば我が国に欧米の教育がふさわしくないのは明らかでしょう。

外国から文物を持ち込む時には、それが自国の土壌にふさわしいかどうかをよく吟味し、慎重に持ち込まなくてはなりません。砂漠に稲を植えても育ちません。沼地に桜を植えても花は咲きません。何によらず何かを持ち込む場合には、自国の土壌、即ち気候・風土・歴史・文化・国民性を考え、慎重に見極めることが大事なのです。

現代教育は「個性の尊重」「個の確立」などが叫ばれています。これらも大事なことに違いありませんが、あまりにも「個」に偏りすぎるのは危険といつも

です。むしろ我が国の「お国柄」を考えれば「集団の一員としての教育」が大事なのではありませんか。「集団主義」「軍国主義」という人がいますが、これこそ時代遅れの石頭と言っべきです。

### 21、校長よ、信念を持って原理・原則を貫け (4/15)

前回「校長は法を破ってでも子供の命を守れ」と述べました。要するに「学校は毅然とした姿勢を持って」と言うことになるのですが、これはいじめや暴力に限らず、学校運営全般について言えることです。近年は学校に無理難題を押しつけてくる不埒な保護者や地域住民が多々います。こんな時、ともすれば学校は「ことを穏便に済ませたい」とする気持ちが働き、毅然とした態度がとれないものです。公務員のいわゆる「事なかれ主義」とも言うべき「組織防衛本能」です。明らかに学校側に非がある場合は平身低頭して謝るべきですが、そうでないなら学校、特に校長は自分の思うところを堂々と主張すべきなのです。しかし、多くの校長は「頭を下げて穏便にすむならば・・・」という気持ちが優先し、頭を下げて相手の意見を受け入れてしまいがちです。そして、それを職員に伝え「こういうことがあったから以後注意するよう・・・」「と指導するのが常です。学校の「保護者の声には謙虚に耳を傾け・・・」の姿勢は大事なことです。が、声にもよりけりです。筋の通らない声にまで謙虚に耳を傾けていては学校が一部保護者の声に振り回されます。この場合は、たゞい保護者と喧嘩になっても一

歩も退いてはなりません。なだめることさえ無用です。私の経験では一歩でも退くと、以後その保護者の声はエスカレートし、むしろ信頼関係が壊れることになるのです。そして学校が保護者のごり押しに屈しますと先生達は保護者に萎縮するようになり、当の保護者はもちろん、他の保護者も学校を軽んじ、筋違いなことをぶつけてくるようになります。そして、いわゆる「モンスター」が増殖し、ついには学校の信頼は失墜してしまいます。つまり、校長が外に向けて軟弱な姿勢を取れば職員が萎縮し、意欲を失い、一部の保護者の声に怯えるようになるのです。外から理不尽な攻撃を受けたときには、校長は逃げ回ってはいけません。最前線になって学校(子供・職員)を守る責任があるのです。真つ先に逃げ出すのはどこかの国の船長だけではないのです。今学校現場では毎年五千人の教師が精神疾患で休職しています。またサンドバッグのようにたかれる学校を見て、教職に就こうとする若者が減っています。

教育現場には、いじめ、暴力、子供の自殺、不登校など、深刻な問題が山積しています。このうえ、学校が一部のモンスターに振り回され、若者が教職を目指さなくなれば、近い将来、学校崩壊どころか、教育崩壊を起こすことになりかねません。しかしそれでも校長さえ腹をくくって毅然と対応していれば何とかなるものです。そして有り難いことに、法治国家の我が国では命までとらわれることはないのです。

# 杉田謙一の歴史・時事研究室 徳永信一弁護士の憲法講座

「草莽の記」より

<https://blazarakuten.co.jp/seimeisugita>

## 大西郷の靖国神社 合祀を望む

2020.09.24

今日は大西郷の自刃の日。明治10年のことです。その戦は西南戦争。はじめて歴史で学んだとき、なぜか私は、「西郷南洲先生の戦」だから西南の名がついたのだろうと思ひ込んでいたのです。

西郷の西南洲の南から西南だと。読みは「さいなん」ではまずかろうから「せいなん」なのだろうと。方位ならば なんせいだろうしこれはないな。いまだその名のついた本当の理由は知りませんが、私の中では敬称たる南洲先生の名前が常に浮かぶのです。

「命も要らず名も要らず官位も要らぬ人は始末に困るものなり。」

この言葉に世俗に生きる自分はいつもハッとします。かくありたいと思つた若き日の決意が事あることに頭をもたげてくる。何もできはしませんが理想として失ってはならぬ言葉だと逆賊の汚名を着て果てられたわけですので靖国神社には祀られていない。しかしこれは何とかならないものか。

維新実現のために孝明天皇の御座所を砲撃した長州藩士が祀られているのですから第2維新に立たれた南洲公が祀られてこれを批判される方はさほど見えないのでは。

公の人柄を愛した明治天皇のご意向や黒田清隆らの努力があつて明治22年（1889年）2月11日、帝国憲法発布に伴つ大赦で赦され、正三位を追贈されてもいる。名譽は十分に回復されているのですから罪人ではないのはもちろんです。

徳川の発祥の地、三河の住人ですので幕府を無能呼ばわりしたり、幕末の尾張藩を支えた高須藩を軽んじる世情には合点がいかないのも事実。高須藩は京都守護職会津藩主松平容保公や京都所司代桑名藩主松平定敬公・尾張藩十四代藩主徳川慶勝を輩出した藩で維新の尊皇の志を薩摩以上に培っていた藩。松平容保公に見られる如く勤王においては薩長に後れを取ってはいないわけです。

ちなみに天誅組の松本奎堂は三河の刈谷の藩士です。しかし大西郷をそん数する気持ちは変わるものではありません。

明治国家の隆盛の最大の立役者を境内社でなく靖国神社本殿にお祀りすることをわたしはぜひ望みたい。有識者の方々には是非とも御意見を伺いたいものであります。

## 「21世紀の憲法問題」としての靖国参拝問題」

2020/10/15 弁護士 徳永信一

日本国憲法の平和構想は、国連憲章の理想(国連軍が世界の警察をつとめ、主権国家を解体し、各国の軍事を解体する)に依拠したものでした。同時に、世界人権宣言や日本国憲法の「人権」思想は、伝統や因習に汚染されない普遍的理性を有する個人として考案され、愛国心や民族愛につながる伝統文化や生活様式という構築物を自由や平等の阻害要因であり、解体の対象として捉えていました。

### ■9条問題

冷戦が国連憲章の理想が棚上げにされることで、日本国憲法の9条の理想を抱いて二階にあがった日本は、梯子を外されてしまいました。梯子を待つか、二階から下りるか。

### ■政教分離の変容

・・・文化多元主義の人権

更に、普遍的理性の究極にあるときれたマルクス主義国家の瓦解によって、普遍的人間に対する信仰が崩れ、人々は文化的・民族的アイデンティティを求めようになりました。未開の野蛮な文明というものはどこにもなく、西欧もイスラムも日本もアフリカも、文明としては優劣なく尊重されるものとなります。

した。文化多元主義です。そこから、言葉とともに民族的伝統としての宗教的文化様式が個人のアイデンティティ確立のために必要なものと意識されるようになりました。

ということで、靖国神社問題は、文化多元主義が台頭する30年前とは全く様変わりしています。かつては政教分離も宗教性はやがて廃れていく時代遅れの當為だという位置づけでしたが、今は、各国の民族的アイデンティティ擁護において必須のものとして人権の中核に位置づけられるようになりました(先住民民族保護条約が典型でしょう)。

イスラム世界にいつて政教分離の徹底を主張することはイスラムの廃止を主張することと同じです。アメリカにおいても同じです。宗教右派は政教一致を強くもめています。

政教分離の徹底は、所詮、宗教に敵対的な国家、旧社会主義国しかなかったわけですから。そして厄介なことに北朝鮮や中国といった旧社会主義国は、主体思想や毛沢東思想という人工的構築物としてのイデオロギーを国教として、支配の道具としていることなのです。それらは伝統宗教より厄介なわけです。

# 今日の新聞報道・ニュース等

## 「拉致の問題を切る」安倍総理辞任と拉致問題 荒木和博(特定失踪者調査会代表) 2020.08.31 やまご新聞社

平成30年(2018)5月6日、ワシントンのアンドループ空軍基地に着した特別機にトランプ米大統領が乗り込みました。この特別機で米国に戻ってきたのは2年前に北朝鮮でスパイとして逮捕、抑留され解放された韓国系米国人ドンチョル・キム(金東哲)氏らでした。大統領はキム氏に「あなたは米国の英雄だ」「海外にいる国民の保護より優先順位が高いことはない」と言ったそうです。

8月28日の安倍総理の辞意表明で、これまで何度も繰り返されてきた「拉致問題は安倍政権の最重要課題」という言葉を思い出し、トランプ大統領の言葉と比べてため息が漏れました。

もちろんパフォーマンスであることは明らかですし、米国もこれまで様々な形で国民を見捨ててきました。ですから額面通りに受け取ることはできませんが、それでも取り返してきてパフォーマンスをするのと、パフォーマンスで終わってしまったことの落差は感じざるをえません。

ただ、私たちにいつまでもため息をついていることは許されません。この変化をプラスに持って行くしかありません。その意味ではもはや「安倍政権なのだから拉致問題は任せておこう」というわけにはいかないのですから、もう一度国民が先頭に立って、誰が総理になろうが拉致問題を前に進めざるを得ないような状況を作るのです。

もともと、他のことはともかく拉致問題に関しては野党も政権の足を引っ張ることはほとんどありませんでした。おそらく次の総理が誰になっても同様でしょう、その素地はあるのですから、国民が声をあげれば動かせるはずで、私たちもその突破口をつくるためにがんばります。

なお、私は毎日5〜10分程度のショートメッセージをYouTubeに挙げていますが、総理の辞意発表があったので臨時版で今日もう一本アップしました。よろしかったらご覧下さい。

<https://youtube.com/4PJ8mZbE>

それにしても安倍総理は憲政史上最長の政権となりながら拉致問題以外でも靖国神社の参拝や北方領土問題の解決、憲法改正などほんの重要な公約を實現できませんでした。

アベノミクスも最後の方は増税で経済を冷え込ませただけでした。病氣だから仕方ないと言えはそれまでですが、納

得のいかない国民は少なくないと思います。せめて靖国参拝くらいは総理を辞めた後でもやっていたら良かったというものが正直なところでは、それでもできないなら他のことも含めて、本当にやる気があったのだろうか、疑わざるをえません。

※この原稿は8月28日付「調査会NEWS324」を加筆したものです。

## NHK「岸壁の母」自虐史観的解説 野伏翔 国会両院記者会 やまご新聞社 2020.09.12

昨日夕飯どきにちらりとテレビを見ましたら、NHKで懐メロをやっていました。

「岸壁の母」舞鶴港で引き揚げの息子を持つ母の姿を歌ったものです。この歌を紹介するアナウンサーは「戦争により引き裂かれた親子の哀しみを歌う」と言っていたが、ちょっと違う！

これはシベリアに抑留された息子の帰りを待つ歌である。

シベリア抑留は戦争中ではなく、戦後武装解除した六十万人近くもの旧日本軍将兵を、ソ連軍が強制的に拉致し、奴隷労働させ、その多くを凍死あるいは餓死させた、明らかに国際法に反した大国家犯罪だ。

ソ連にも又アメリカにも、未だに戦勝国に忖度し、罪を罪と断罪する事も出来

無い東京裁判史観、自虐史観による言語空間が、日本のマスメディアを覆っている。

北朝鮮による拉致が40数年もたつて未だ解決出来ない根本の理由も、ここにある！

## 休日の部活動は民間委託へ、教員の負担軽減 9/1(火) TBS系(JNN)

文部科学省は長時間労働による教員の負担を減らすため、休日の部活動については運営を民間に移行していく方策をまとめました。

部活動の指導をめぐっては、教員の長時間労働の原因や指導経験がない教員の負担になっているといった声があがっています。

これを踏まえ、文部科学省は1日、「学校における働き方改革推進本部」で、休日の部活動については民間のスポーツクラブや芸術文化団体などに運営を移行していく方策を示しました。地域のスポーツ指導者や退職した教員などの人材を確保する一方で、希望する教員は引き続き指導できるようにします。

文科省は来年度から各都道府県の拠点校で試行したうえで、公立の中学・高校を中心に2023年度から段階的に実施するとしています。

# 連合艦隊各艦の予定・活動報告

## NPO法人百人の会

●弊NPO法人百人の会は、第106(通算106)回定期勉強会・理事会の時期となっておりますが、コロナウィルスのため、アクセルとブレーキ両方に足を置いたままの状態となっております、第11(通算22)回定期総会(書面決議)の報告や、いろいろお話ししなければならぬことも溜まってきていますが躊躇する日を送っています。大阪的には、11月1日に大阪都構想の住民投票がありますのでそれが終わってから勉強会・理事会を再開したいと考えております。日程はもう少し状況を見て決定しご連絡いたします。決して忘れてはけませんので念のためご連絡いたします。

### 編集後記

その1  
先日、東京町田の永井均さんから次のようなメールをいただいた。  
\*\*\*\*\*

増木 さと  
小生(現79才)が使用して来まして  
た自家用車を、昨年廃車しました。  
と同時に、免許証を、返納しました。  
東京都公安委員会から、運転歴証明書  
が、送付されました。この証明書が、  
小生のく身分証明書の役割を担って来

て居ます。  
外出時は、公共交通II小田急鉄道・地元(町田市)・バス等々IIを利用。自家用車は、種々なる公的賦課を、支払わなければなりません!

結局、公共交通を利用するのが、一番安全で、安いです! 町田市 永井

~~~~~  
大変賢明なご判断だと思えます。特にお子さまたちからは歓迎されるでしょう。私も、親父から(88歳)免許証を取り上げるのに難儀しました。難儀したのは田舎で一緒に住んでいる弟とその嫁ですが.....  
都会はまだ電車やバスがありますが、田舎はどうしようもなく、自家用車がないとスーパーにもいけず、困るのも事実なのです。親父と弟は毎晩怒鳴り合いをしていたようです。

田舎はよくしたもので、まだ「お上の言うことは聞かないといけない」という風潮があります。結局弟が警察に頼み込み、お巡りさんがやんわり取り上げてくれたようです。 マスキ

その2

先日、ついにマイカーがガタが来て、車検を機に買い換えました。そして、新しい車の車番が何と「731」番。731と言ってもわかる人は少なくなっただでしょうが、わかる人はわかります。私は731部隊に好意も悪意もありませんが、

よりによって。さうそく陸運局に「II」変更に行ってきました。新しい車番は「357」。これも何と覚えやすい番号か。 マスキ

その3

昨夜、埼玉の村田春樹氏より電話をいただいた。いくつが要件があったのだが、それらを済ませ、最後に、大阪都構想の話になった。「俺には関係ないんだけどな!」と前置きしながら.....実は、大阪以外の方と都構想問題を話すとみんな必ず言っんです。「俺には関係ないんだけど」と。  
さて、旧国鉄は民営化した。その結果、動労と国労は潰れた。それまで国鉄II(日本政府)は動労、国労にどれだけ手を焼き、赤字垂れ流しの尻拭きに税金を費やしたか。そして民営化。寄生主

### 原稿・同封資料の募集、メール配信について

まずは、平素より私どもの活動に力強いご支援を賜り心から御礼申し上げます。マスキ情報デスクは連合艦隊、参加団体(巻頭下段)にご縁のあった人の名簿を管理し、『M情報活動報告』を毎月全国約5千(目標1万)部(議員4割)発送しています。  
本紙に掲載ご希望の論文、情報等ごんごんメールでお送りください。また、弊紙はメールアドレスで発送し、重さ制限は簡単自己紹介を。  
(発信名義「NPO法人百人の会」)。

### ●弊紙は購読料は頂戴しません。

「M情報」では、日々、全国各地の間から情報が送られてきます。それをメルマガで転送配信します。内容はどこよりも詳しく多種多様。試しに一度受信してみませんか。要領は巻頭のアドレスに「メール希望」と空メールと

### 活動資金)協力のお願

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 MASUKI 情報デスク  
TEL: 03-245547 MASUKI 情報デスク  
FAX: 03-245547 MASUKI 情報デスク  
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 MASUKI 情報デスク  
TEL: 03-245547 MASUKI 情報デスク  
FAX: 03-245547 MASUKI 情報デスク